

平成19年10月31日

学 長 殿

リサーチセンター評価専門部会長 加藤史郎

リサーチセンター評価結果報告書

豊橋技術科学大学リサーチセンター設置基準等に係る取扱第10条に定める評価を行いましたので報告します。

評価実施リサーチセンター名 **未来ビークルリサーチセンター**

評価

1. 設置目的に沿った運営がなされているか

財政評価：19年度までと今後予定の外部資金は、設置基準よりやや低い。

5コアを設置し学内の分野横断的連携体制の構築と活性化、自動車に関する総合学術研究拠点の構築、地域自治体等との連携融合事業及び地域貢献・振興、などの設置目的に沿って概ね順調に運営されている。

2. 設置後の研究成果はどうか

年報による評価：関連する各種事業の報告・研究成果の公開がなされている。各種プロジェクト（客員教授招聘も含む）の推進、地元企業・関連海外組織との交流事業、30周年記念シンポジウム開催、地域社会への情報提供、研究者交流、多くの論文公表など成果を上げている。

異種金属接合技術が平成19年度経産省地域新生コンソに採択は評価される。

3. 今後の研究計画及び期待される効果はどうか

未来ビークルの広い概念を掘り下げ、機械生産の大半を担う東海地域にあって、衝突予防・異材接合・自動車用電池等のコア研究以外にも、機械・ロボット・制御・医用工学・生体工学等の分野における先進的、先鋭的な研究推進が大いに期待できる環境がある。地場産業・地域社会への一層の貢献と、アジア・欧州等との連携強化により人材育成（社会人、博士）も含め国際研究教育拠点の形成が期待できる。

自動車関連を中心になかなく2010年万博への出展が実現すれば国内外から本学プレゼンスの向上に貢献するものと期待される。

G-COEの申請が強く望まれる。

4. 総合評価 【3.8】(5段階評価の平均値)

今後、産業界からのニーズを掘り起こし外部との連携を進め、文部科学省連携融合事業経費以外の外部資金獲得が望まれる。関連系と共同で可能な関連分野を広げ、本学全体の教育研究の発展に結びつける教育研究プロジェクト（あるいは教育課程）等の構想展開が必要である。

3年間の設置延長は問題ない。